

お し ら せ

I 核データセンターの発足に際して

本年7月1日付をもって原研物理部原子核データ室は同部核データセンターと改称致しました。昨年6月1日付で核データ研究室が認可組織の原子核データ室に発展した際(「核データニュース」No.1, p.65(1976)参照), 英文名称としてはNuclear Data Centerを使うことが認められましたが, このたび和英名共に名が体を表わすこととなりました。まだその“体”が充実したものであるとは言えませんが, ともかくも原研に核データセンターが発足致しましたのは, 日本原子力学会シグマ特別専門委員会と原研シグマ研究委員会(両委員会をあわせて通称シグマ委員会)の委員各位をはじめ原研内外の関係者各位のご協力とご支援の賜物と感謝致しております。

シグマ委員会内に限り, 百田初代委員長と塚田委員長を別格と致しましても功労者は多士済済で, 個々に挙げきれませんが, この機会に関係各位のご努力を振り返る意味をこめて, 以下に歴史的経過を簡単に列挙致します。

昭和

- 38年 日本原子力学会シグマ専門委員会および日本原子力研究所シグマ研究委員会発足。
- 同年 IAEAのInternational Nuclear Data Scientific Working Group (INDSWG, 後にINDCに発展)に参加。
- 40年 日本原子力学会シグマ特別専門委員会発足。
- 同年 INDSWG第4回会合を日本で開催。
- 41年 ENEA(後のNEA)の中性子データ編集センター(CCDN)に加入。
- 同年 ENEAのEuropean-American Nuclear Data Committee(EANDC, 後のNEANDC)に参加。
- 同年 INDSWGがInternational Nuclear Data Committee(INDC)に発展。
- 42年 日本原子力学会会長から原子力局長宛「核データの収集・整備の機関設置に関する要望書」およびNAIG, MAPI, 日立王禅寺各研究所長連名で原研理事長宛「核データセンター設置に関する要望書」の提出。
- 43年 原研物理部に核データ研究室新設。
- 44年 原研とシグマ委員会炉定数専門部会とによってJAERI FAST SET 完成

- (日本原子力学会賞受賞)。
- 45年 日本独自の評価済み核データライブラリー作成の予備的検討開始。
- 46年 原研とシグマ委員会炉定数専門部会とによって熱中性子炉用核分裂生成物炉定数完成
(日本原子力学会賞受賞)。
- 48年 整備を必要とする核データの範囲拡大の第1歩として、シグマ研究委員会内に新たに
燃料計量核データ専門部会を設置、従来の核データ専門部会および炉定数専門部会と
あわせて3専門部会となる。
- 49年 EANDC第17回会合を日本で開催。この次の会合からEANDCはNEA
Nuclear Data Committee (NEANDC)と改称。
- 同年 シグマ研究委員会内に崩壊熱評価および融合炉核データ・ワーキンググループ発足。
- 50年 原研とシグマ委員会核データ専門部会および炉定数専門部会とによって核分裂生成物
の核データライブラリーおよびFP炉定数セット完成(日本原子力学会賞受賞)。
- 同年 日本原子力学会会長から原子力委員会委員長宛「核データ整備の専門機関設置に関する
要望書」およびINDC委員長から原子力委員会委員長宛の要望書「Japanese
Nuclear Data Centre」の提出。
- 51年 日本独自の評価済み核データライブラリー第1版JENDL-1編集完了。
- 同年 原研物理部核データ研究室が認可組織の原子核データ室に発展。
- 52年 ベンチマークテストを終えてJENDL-1を公開。
- 同年 JENDL-2作成開始。
- 同年 原研物理部原子核データ室が同部核データセンターと改称。
- 同年 シグマ研究委員会内新ワーキンググループが核構造崩壊データ評価の国際分担作業開
始。

なお、原研では昭和51年度から核融合研究開発のための原子分子データ整備の活動を開始し、名古屋大学プラズマ研究所の企画情報センターと並んで、この目的のデータセンター活動も核データセンターで行う計画であります。また核データセンター内の原子分子データ担当は中井洋太主任研究員であります。

日本の核データ整備活動は上述の範囲のみではなく、特に、昭和48年から文部省の特定研究として広範な学術情報処理の研究が行われている中で、1つの班が核物理研究の立場から荷電粒子核

反応データの格納検索システムの開発を進めています。これらの活動と原研およびシグマ委員会の活動との間の連絡を目的として昭和50年12月から核物理委員会のもとに核データ小委員会が発足しています。

原研核データセンターは広義の原子力研究開発に必要な核データを整備するための国内活動と国際協力の中核の役割を果たさなければなりません。現状では、人手不足その他の理由で各方面からの要求に対し満足な応答の出来ない場合も起ると思われ。このような場合、あきらめずに忌憚のない具体的注文をぶつけてもらうことが、センターにとって大きな精神的支援となりますので、この機会によりしくお願い致します。

原研 物理部

核データセンター室長 更田 豊治郎